

令和6年度 学校評価報告書

- ★ アンケート回収数は、児童378名、ご家庭102戸、教職員27名である。
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答の場合もあるため、「評価(A～D)」は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。
 ★ 「平均」、「総評(総合評価)」は、比較しやすいように4点を最高として示している。 《平均》 (4点×Aの回答数 + 3点×Bの回答数 …) ÷ 回答総数

1 知恵いっぱい (学び)

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない)

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント及び平均評価 4点(最高) ・ 3点 ・ 2点 ・ 1点(最低)
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
1	先生は、一人一人の子どもに対して分かりやすい授業を行っている。	児童 保護者 教職員	40 50 27	44 45 65	12 4 4	4 1 4	3.2 3.4 3.2		昨年度と比較すると、児童と保護者は同じ数値で、教職員の評価が0.2P低くなっている。主題研究等を通して、授業改善に取り組んできたが、なかなか数値的な成果につながっていない。今後も、学習の土台となる基本的な学習習慣・生活習慣の育成に取り組みながら、「児童にとって分かりやすく、力の付く授業」を目指して、実態の分析や授業改善に取り組んでいく。	3.0点
2	学校は、本に親しませ、読書習慣を定着させるための、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	38 43 9	31 49 70	20 7 17	11 1 4	3.0 3.3 2.8		昨年度と比較すると、保護者の評価は0.1P高くなっている。一方、教職員は0.3P低くなっている。教師が各学級で貸出の時間的余裕が見い出せず、適切な手立てをとることができなかつたと考える。隙間の時間を使う等、年間を通して積極的に貸出の機会を設定していく。	
3	先生は、学習中の姿勢や発表の仕方など、望ましい学習習慣の定着のために、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	28 57 15	40 36 70	22 5 15	10 2 0	2.9 3.5 3.0	3.2	昨年度と比較すると、児童と保護者の評価は0.1P高くなり、教職員が0.2P低くなっている。教職員は、離席や私語等生徒指導面での指導に追われ、手立てが行き届かないと考えている。特に児童の「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の評価を改善すべく、基本的な学習習慣の定着を目指し、より具体的な方策を検討・提案していく。	
4	先生は、宿題や宅習(がんばるノート、自学)など、日々の家庭学習への適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	58 66 14	24 29 72	11 3 14	7 2 0	3.3 3.6 3.0		昨年度と比較すると、児童が評価0.1P低くなり保護者の評価が0.2P高くなっている。これは「がんばるノート」の採用や自学での「めあて・ふり返りの明確化」等全校統一した取組の成果だと考える。 一方で、教職員の評価は0.2P低くなっている。児童の低くなった評価とともに、各学級担任が個人差に応じた効果的な取組方を更に考えていく。	<p>○ 校長先生をはじめ、教職員の方々は、いつも一生懸命取り組んでくださっていると思います。しかし、参観日等で児童の様子を見て少し不安になることもあります。児童が意欲的に学習に取り組める環境が整えられると、また違ってくるのかなと思います。</p> <p>○ 読書の取組として、ビブリオバトルというものがありますので、導入してみてはどうでしょうか。一部の学年で大変苦労されている様子を見させていただきました。何ができるか明確な答えが出来ないのですが、福祉体験等が何かのきっかけにならないかと感じています。</p> <p>○ 生徒指導に追われ、学習指導に取り組む余裕が少なくなっている中で、努力している姿勢は感じられる。教職員が余裕をもって学習指導に取り組むことができる環境整備をお願いします。</p> <p>○ 日頃、図書館を利用(最近)しているが、児童の利用が少なく、もっと本に興味をもつ環境づくりが望まれると感じる。(小学校の学校図書館を利用していたが。)情報過多の情勢の中でも、マニアック(これまでの情報収集の書籍等)へ、関心が深まることを望む。</p> <p>○ 教職員の評価が低くなっている点が気になる。教職員の自信がなくなっているのではないか。保護者は、評価している。自身をもってほしい。</p> <p>○ (なし)</p> <p>○ 読書の日を設け、身近にある町立図書館を利用し、たくさんの蔵書に触ることで、読書の意欲が身に付いていくのではと思います。丁寧に字を書く指導を継続していただきたい。正しく丁寧な字の習慣が身に付くと、自ずときれいな字体に発展すると思います。</p> <p>○ 「自己評価のコメント」にもあるように、生徒指導面に対しての苦労があったと思われます。(自己評価が厳しい...)教職員のCやD評価が見られることから、ストレス等への先生方へのフォローが重要と思いますので、よろしくお願ひします。全体評価としては、大変な中、しっかりと対応されたことが評価されています。</p> <p>○ 授業以前の問題を抱えていることを理解しました。</p>

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント及び平均評価 4点(最高) ・ 3点 ・ 2点 ・ 1点(最低)
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
5	学校は、元気なあいさつや会釈について、適切に指導している。	児童 保護者 教職員	54 60 26	32 33 70	12 6 4	2 1 0	3.4 3.5 3.2		昨年度と比較すると、児童、保護者、教職員の評価がそれぞれ、0.1P高くなっている。児童会によるあいさつ運動や、全校児童に呼びかけてのあいさつボランティアを継続しており、児童の意識は高まりつつある。今後も、各学年・学級で、あいさつの大切さを児童に伝えていくとともに、先出しあいさつができた児童を積極的に称賛し、心の通い合うあいさつができる児童を増やしていく。	3.1点
6	学校は、無言清掃が定着し、環境美化が行き届いている。	児童 保護者 教職員	48 36 22	36 51 67	12 11 11	4 2 0	3.3 3.2 3.1	3.3	昨年度と比較すると、児童と保護者の評価には変化がないが、教職員の評価では0.1P低くなっている。週に2回の清掃が確保できなかったこともあり、環境美化への徹底がなされなかった。次年度は、清掃回数を週に3回とし、環境美化の徹底を図っていく。	<p>○ 寒い時期でも、あいさつボランティアに取り組む児童がいるということ、とてもすばらしいと思います。あいさつの輪がもっともっと広がると嬉しいです。自分のことだけでなく、相手のことを思う気持ちや、危険予測ができるようになると、評価も変わってくると思います。</p> <p>○ あいさつ運動を続けていくことで、改善していくと思います。夏の時期は、草の伸びが激しいので、年間を通して環境美化に取り組む体制が必要だと感じています。一部の学年の行動が、いじめにつながっているのではないかと心配しています。</p> <p>○ 一部の児童による問題行動により、評価が低くなっているように感じるが、あいさつの取組等、全体的にはよくなっているように感じる。</p> <p>○ 家庭環境にもよると思うが、日常会話の中で積極的に児童との言葉のふれあい(いってらっしゃ。ありがとう etc.)を大事にし、日頃から多くの児童への言葉かけに努めたい。</p> <p>○ 基本的な生活習慣は、日々の声かけが大事であり、教職員がしっかりと指導している結果が出ているのだと思う。環境美化については、心の成長に結び付くと思うので、次年度に期待する。</p> <p>○ 同じ学年でも、バラバラの登下校がさびしい。</p> <p>○ (なし)</p> <p>○ 一部の児童によるトラブル等の影響がある中で、本当に粘り強く、繰り返し心の教育に尽力していただいている。現状分析が的確で、次年度の改善点を明確にされています。</p> <p>○ 「清掃回数を週に3回とし」に期待します。町内在住の外国人から小学校で児童が清掃しているところを見学させてほしいとの声。希望日が、春休み中のため、関係者への声かけには至っておりません。余談ですが、「学校～それは小さな社会～」話題の映画の一部映像の中で、清掃風景を見ると、私たちには普通のことでも、日本以外でもとてもよい習慣だったのだと思いました。</p>
7	学校は、返事やくつ(トイレのスリッパ)並べ、正しい廊下歩行など、基本的な生活習慣の定着に向けて、適切に指導している。	児童 保護者 教職員	43 46 22	37 48 67	16 5 11	4 1 0	3.2 3.4 3.1		昨年度と比較すると、教職員の評価は0.1P高くなっている。トイレのスリッパを並べることや安全な廊下歩行については、繰り返し指導しているところである。トイレのスリッパを並べることについては、意識が高まっているところがあるが、廊下を走る児童は依然少なくない。全教職員で一丸となって繰り返し指導をしていく。	
8	学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。	児童 保護者 教職員	63 28 37	26 53 59	8 14 4	3 5 0	3.5 3.0 3.3		昨年度と比較すると、児童の評価が0.1P、保護者の評価が0.2P低くなっている。一部の児童ではあるが、日常における言葉の荒さや、悪口、トラブル等は多く、それが全体に影響を与える場面も少なくない。全学級で学校のスローガンを話し合い、児童会を中心、「友だちを大切にし、決まりを守る」とまとめ、ポスターを掲示した。自分たちの生活態度について正そうと意識するようになってきているところである。今後もいじめ・不登校の早期発見、早期解決に向けて、心のアンケートや教育相談、保護者面談等を計画的に実施し、より一層の児童理解に努め、組織としての共通実践に取り組んでいく。	

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント及び平均評価 4点(最高) ・ 3点 ・ 2点 ・ 1点(最低)
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
9	学校は、運動に親しみ、体力向上をさせたための適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	56 47 5	28 47 77	13 5 18	3 1 0	3.4 3.4 2.9		昨年度と比較すると、保護者と教職員の評価が0.1Pずつ高くなっている。新体力テストの結果を見ると、ほとんどの学年の総合得点が高くなっている。低下した項目としては、シャトルランが挙げられ、持久力の向上が求められている。そのため、2学期後半から授業の導入で5分間走を取り入れたり、3学期には、なわとび月間を設け、なわとびカードを用いた活動を行ったりして、児童の体力向上を目指している。これまでに数回、体育委員会の活動として、体力向上を目標に全校児童が昼休み等に取り組める遊びを考え、実際にそれを行った。今後も、体育科の学習だけでなく、児童が進んで運動に親しむ機会を設けていく。	3.2点
10	学校は、生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	51 41 4	29 52 70	14 6 26	6 1 0	3.2 3.3 2.8		昨年度と比較すると、教職員の評価が0.1P高くなっている。今年度は、学校保健委員会で高学年を対象に、メディアに関する講話を聞く機会を設けた。また、月に一度「ノーメディア読書デイ」を設定し、意識啓発に努めた。次年度もメディアの使い方を含めて、生活リズムが身に付くように、家庭に情報発信をしていく。	
11	学校は、給食指導や弁当日の日の実施など、望ましい食習慣の定着に向けて、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	58 51 13	26 44 78	11 3 9	5 2 0	3.4 3.4 3.0	3.3	昨年度と比較すると、児童、保護者、教職員の評価がそれぞれ0.1Pずつ低くなっている。今年度は、給食センターの先生による給食時間の各学級巡回や給食試食会を実施し、保護者の協力を得ながら弁当の日を年3回実施した。次年度も、給食の大切さを知ってもらうために、給食試食会の継続と弁当日の取組に関する啓発を行っていく。	
12	学校は、避難訓練や交通安全教室を通し、危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	66 68 28	26 30 68	6 1 4	2 1 0	3.6 3.6 3.2		○ 避難訓練 昨年度と比較すると、児童の評価が0.1P高くなっているが、教職員の評価は0.1P低くなっている。今年度の下校時避難訓練では、児童が自分達で考えて判断し、避難した。4～6年生の児童を対象に防災に関する講話を聞く機会を設けたことや防災マップづくりを行ったことも、防災に関する意識を高めるきっかけになったと考えられる。しかし、形式的な訓練になってしまったこともあり、自らの命を守るためにの訓練として児童が十分意識しながら訓練に参加できていない場合もあった。次年度は、児童が真剣に訓練に参加できるよう、明確なねらいを定めて計画的に実施していく。 ○ 交通安全教室 昨年度と比較すると、児童の評価が0.1P高くなっている。年度初めは、地域の方から安全な下校や自転車の乗り方について心配の声をいただいていたが、年度後半は、そのようなこともなくなってきた。今後も安全指導を継続しつつ、下校時の見守りや交通安全教室における指導の在り方を工夫し、児童の安全の意識を高めていくようにする。	<p>○ 児童が健康で、安全に過ごすことができるよう様々な機会を設けてください、ありがとうございます。今の児童の体力低下の原因是、個人の能力ではなく、環境や生活習慣が大きく影響しているそうです。意図的に体を動かす機会を設けたり、環境を整えたりしていけるよう、学校だけではなく、家庭と地域も一緒になって何ができるのか考え、取り組めるといいなあと思います。避難訓練では、児童に危機回避能力がもっと育成されることを願っています。</p> <p>○ 避難訓練では、高学年の児童が低学年の児童をリードしてくれました。東栄町地区のグループに同行しましたが、児童同士で避難場所を相談して決めていたのはとてもよい取組だと思いました。自転車のヘルメット着用を徹底するよう、指導していきたいと思います。</p> <p>○ コロナ禍以降、児童の体力の低下や生活習慣の乱れが目に付くようになっているので、力を入れて取り組んでもらいたい。</p> <p>○ 家庭内での会話の中で、「今日の給食で□□を食べた。」とか、「△△さんとドッジボールをした。」とか、何気ない会話の中に少しでも学校内での児童のちょっとした変化を感じられる家庭内の会話がぜひ、必要であると感じる。学校内でも、個々へのヒアリングがあれば、各家庭内での指導のヒントが見付けられるのだが。</p> <p>○ 体力の低下は、コロナの影響があったと思う。今後も様々な場面で、体力向上を図ってほしい。生活リズムは家庭の協力も必要。今後も情報発信をお願いしたい。</p> <p>○ (なし)</p> <p>○ (なし)</p> <p>○ 教職員の取組に対しての児童・保護者のA及びBの評価が多い結果は、その取組がよいものと感じられていると思います。「9」の体力向上、「10」の生活リズムの教職員の「あまりあてはまらない」評価が多いことから、そう評価した根拠があると思うので、それを拾い上げ、先生方の達成感を向上してほしい。</p> <p>○ 防災意識を高めるきっかけができる、よかったです。</p>

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント及び平均評価 4点(最高) ・ 3点 ・ 2点 ・ 1点(最低)
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
13	学校は、地域の材を生かしたふれあいや体験活動を積極的に行い、キャリア教育の充実に努めている。	児童 保護者 教職員	66 46 30	26 44 57	6 9 13	2 1 0	3.6 3.4 3.2	3.4	保護者と教職員の評価は、昨年度と同様であるが、児童の評価は0.1P高くなっている。本年度、1年生では高齢者との昔の遊び活動、2年生では門川高等学校の生徒や地域の方々とのサツマイモの栽培活動、3年生では宮崎大学教授による門川の魚に関する授業、4年生では門川高等学校の生徒による防災教育や乙島体験活動、5年生では門川町食生活改善推進員(ヘルスマイト)との調理実習、6年生では「ようこそ先輩」や地域起こし協力隊の方々の講話、全校では下校時避難訓練時における門川高等学校の生徒や地域の方々の協力等、昨年度よりも更に地域との連携が充実してきた。また、門川町地域学校協働活動推進員のおかげで、外部との連携をスムーズに図ることができている。児童の郷土愛、職業観等を高めることができるように、今後も工夫・改善を加えながら継続して取り組んでいく。	3.7点
14	学校は、教育目標や課題、必要な情報を、PTA総会や学年・学級懇談会、学校だよりなどを通して、分かりやすく発信している。	児童 保護者 教職員	— 50 39	— 43 52	— 6 9	— 1 0	— 3.4 3.3	3.4	昨年度と比較すると、保護者の評価は変化がないが、教職員の評価が0.2P上昇している。本年度は、全職員が分担してホームページの記事を書き、昨年度以上に更新回数を増やすことができたため、当事者意識が高まったものだと考えられる。また、学校だよりは、1か月に2種類発行した。その中の「校長室通信」は校長の学校経営に関わる内容や考え等を、「びろうじま」は学校の様子や児童の頑張り等を中心に保護者や地域に伝えることができた。さらに、授業参観後の学年懇談会の設定を増やしたり、学年保護者会を開催したりして、学年として保護者と共通理解・共通実践していきたいことを提案したり、話し合ったりできた。 課題は、アンケートの回答・回収を手際よく行うために、URLや二次元コードの活用を図ったが、紙で実施したときよりも回収率がとても低かった。次年度は、締切日前日までに、マチコミメールにて、そのことを知らせていく。また、児童の健全育成について、保護者と一緒に解決すべき課題については、個別に校長・教頭・学級担任等との話し合いの場を積極的に設けたり、全家庭に示したりして、より一層の連携・協働に努めていく。	（なし） （なし） 児童を地域で育てるという強い気持ちを感じました。先生方が児童と向き合う時間をもっともてるよう、負担を増やさないことをもっと大切にして進めていければよいと思っています。 外部とのつながりの中でたくさん吸収して、その取組の中で成長できる児童に期待します。また、全職員が分担してホームページの記事を書いたという点を高く評価します。

- 先生方には、ご尽力いただき、感謝しております。年度初めに校長先生よりお話をいただきました門川小学校経営方針に則って指導してくださっているおかげで、門川小学校がよりよくなっていると思います。今後ともよろしくお願ひいたします。
- ある学年の授業の様子を見たのですが、先生達の大変さをあらためて感じました。先生の指導をきちんと聞かない原因が何なのかが大事だと思います。学習の遅れは、原因の一つではないでしょうか。（勉強を理解できていないので、楽しくない。）
- 一部の児童による問題行動により、保護者や教職員の評価が低くなっているように感じるが、児童はA評価の割合が高く、学校生活に満足している割合が高いように感じます。これからも、地域の学校として、児童のよいところを伸ばす教育を続けていってください。
- 学校内でのいじめ問題（いじめられた側にいた身からすると）は、なかなか先生や保護者からは、見付けにくく、児童のちょっとした態度や言葉の中に、それを見付け出す努力が必要だと思います。過去に、不登校の子どもと接する機会があり、昼休みのテニスの時間（スポーツ参加）には、声出しも会話も、知らない第三者となら普通にできる子どもだなあと感じました。子どもの長所を見付け出して、伸ばしていける手段を見付けたいものです。
- 次年度はタフな1年になると思う。様々な関係機関と連携し、「門小は変わった」と言われるようにしてほしい。
- 時代が変わったといえば、何も口出しえませんが、私たちの時代は、先生が怖かったものです。話をするのも緊張が先立ち、保護者も先生に対し、「悪い事をしたら、怒ってやってください。」でした。今思うと、善し悪しの軸までしていただいたようです。参観日に2、3度おじやましましたが、自由奔放で、学ぶ姿勢としてはほぼ違いました。あいさつにしろ、保護者の軸の一環かなと思っているところです。
- 各地域におきまして、通学路において毎朝夕の登下校の見守り活動を担っています。児童とのあいさつ、ふれあいを楽しみにしています。現在、見守り活動を担っている皆さん方が、徐々に高齢となっていき、体力的に朝夕の見守り活動が厳しくなってきている現状です。週に1、2日がやっとの現状になってきています。現在の状況をお知らせさせていただきます。
- 先生方の困り感を保護者や地域で軽減していく必要があると感じています。もちろん、答えはないのかもしれません、「何か」できることを1つでも協力していこうと思います。
- 今の小学校事情を少しづつ理解してきました。とはいえ、分からぬ部分の方が多いので、私の小学校時代の話になります。親が校庭の遊具を作りしてくれ、遊具の名前は募集した中から選ばれて付けられました。木をふんだんに使った遊具は愛着があり、親となり母校へ通わせたいと強く思うようになりました。親が作りてくれた遊具、全てが真実ではないかもしれないけれど、母校が好きでした。うさぎのエサ当番があり、学級で呼びかけて持って来もらいました。友達に助けられたり、助けたり。ありがとうを言ったり言われたり。人の気持ちがよく分かる何かがありました。ここまでは余談ですみません。大人が一生懸命考えて、児童が手を貸したくなるような、何かを考えられたらと思います。旭中のケースは活かせないでしょうか。

6 次年度への改善について

- 1 生徒指導の充実… 全職員による組織的対応（指導）を充実させ、委員会活動や係・当番活動、学年及び異学年での活動を推進するとともに、家庭・地域と連携した基本的な生活習慣の指導を徹底する。また、心の教育を充実のために、アイスブレイキングを推進したり、「認める指導」を継続したり、児童作品を積極的に新聞に投稿したりして、自己有用感を高揚を図る。
- 2 学習習慣の定着… 年度当初に「門川『授業の5箇条』」（「チャイム前着席、黙想」「はっきり返事、まっすぐ起立」「はきはき発表」「目・耳・心で聞く」「授業に集中」）を徹底させ、家庭と連携して、学習用具の準備や家庭学習、読書活動の習慣化を図る。また、基礎学力の定着のために、協働的な学習を推進するとともに、ICTを積極的に活用したり、個々の定着状況の確実な見届けと補充指導を充実させたりする。
- 3 防災・安全に係る指導の充実… 規範意識の醸成を図り、危険回避能力を育成するとともに、地域連携の更なる推進を図り、下校時避難訓練を充実させる。また、健康・体力づくりの推進のために、メディアコントロールや保健・衛生、食に関する指導を充実させるとともに、新体力テストの結果の基づく「スクールスポーツプラン」を実践し、外遊びの推奨と全校児童で遊ぶ日を設定し、意図的に体を動かす機会を設ける。
- 4 家庭・地域・関係機関との連携推進… 学校運営協議会や地域学校協働活動本部との協働によって、地域人材を積極的に活用し、キャリア教育を充実することで、「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を目指し、その広報活動も積極的に行う。また、専門機関や相談機関等（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、医師、門川町教育支援センター、門川町社会福祉協議会、宮崎県北部福祉こどもセンター[児童相談所]、警察等）の積極的な活用と連携により児童の健全育成を図る。